

リサーチ・アドミニストレーション研究会 2012年度大会(第4回)

日時:平成24年9月4日(火) 9:45-15:15

場所:学術総合センター中会議室 1~4 (東京都千代田区)

主催(大会世話役): 東京農工大学研究戦略センター

金沢大学先端科学・イノベーション推進機構

対象: 大学・研究機関の研究担当理事・副学長等、研究者、RA 実務者、大学事務職員、
ファンディング・エージェンシー及び企業の研究・産学官連携部門担当者

参加費: 無料(旅費は自己負担)

参加定員: 120 名

RA研究会の趣旨:

研究機関において異分野融合・産学連携・研究と教育の連携等、これまで外部資金獲得の支援業務を越えた、特に大型で長期のマネジメントが必要となる研究関連事業の企画・申請・運営にかかわる活動全般(リサーチ・アドミニストレーション)を対象とし、リサーチ・アドミニストレーションに関わるメンバー間のネットワーク形成を目指す。

プログラム:

9:45- 開会挨拶

東京農工大学副学長(学術・研究担当) 普後 一

9:50- 来賓挨拶

文部科学省科学技術・学術政策局産業連携・地域支援課長 里見朋香

9:55- 大会趣旨説明 「定着化に動き出した日本版URAのさらなる発展に向けて」

コーディネーター: 理化学研究所研究戦略会議研究政策企画員 高橋真木子

10:15-11:45 ワークショップ(WS) (S:スピーカー、C:コーディネーター、R:ラポルトゥール)

WS1: 「研究者ニーズと日本版URAのあるべき姿」・・・中会議室1、2

URAに対するニーズは、各研究者の立場、また各大学の状況によっても異なると考えられる。本ワークショップでは、外部資金申請、プロジェクト企画、研究環境整備等に関する支援を必要としている研究者、大学・部局運営者等の目線からURAに対するニーズを整理し、それをもとにURA及びURA組織のあり方等について議論する。

S: 大阪大学大型教育研究プロジェクト支援室統括マネージャー/特任教授 池田雅夫

C: 金沢大学先端科学・イノベーション推進機構 鳥谷真佐子

R: 東京農工大学研究戦略センター 諏訪桃子

WS2: 「日本版URA人材の育成」・・・中会議室3

日本版URAの制度は立ち上がったばかりであり、URAに求められる役割やスキル、評価基準が不明確な場合もある。また、職種や処遇も大学によって多様である。特徴的な先行事例等を参考にしながら、今後活動が加速するとみられるURA人材の育成に必要な具体的手法について議論する。

S: 早稲田大学研究戦略センター教授、研究推進部産学官連携担当部長 中島一郎

C: 東京農工大学工学府産業技術専攻特任教授 伊藤 伸

R: 信州大学産学官連携推進本部リサーチ・アドミニストレーション室 伊藤広幸

WS3: 「日本版URAの外部ネットワーク形成」・・・中会議室4

所属する大学内に閉じがちなURA活動について、単一の大学を越えて複数大学URAのネットワーク形成が有効な内容、その方法、効果について議論する。(①海外も含めた複数大学のURAによる共同研究プロジェクトの企画、②大学共通的な研究マネジメント課題の解決 [評価のあり方、研究者のインテグリティなど]、③URA活動ノウハウの相互研鑽、等)

S: 名古屋大学産学官連携推進本部連携推進部長・教授、リサーチ・アドミニストレーション室副室長 武田 穰

S: 京都大学学術研究支援室室長/特任教授 田中耕司

C: 東京農工大学研究戦略センター 丸山浩平

R: 京都大学学術研究支援室 白井哲哉

(11:45-13:30 ランチ休憩)

12:00-12:45 ランチョンセミナー

LS1: 「客観的データを戦略的研究支援に役立てよう」エルゼビア社・・・中会議室3

戦略的な研究支援をお手伝いするためのサービスやツールを、国内外の研究機関における活用事例を交えてご紹介します。世界中のURAは、客観的なデータをうまく使いながら、「次世代の重点研究領域はどこになりそうか」「大型の競争的外部資金を獲得するための分野融合プロジェクトのリーダーにふさわしいのはどの教員か」「研究成果をどう発信したら国際的なビジビリティを上げられるのか」といった課題に取り組んでいます。おいしいお弁当を食べながら、情報収集しませんか。

S: エルゼビア・ジャパン株式会社プロダクトマネージャー 柿田佳子

LS2: 「URAのためのWeb of Science/InCites活用講座」トムソン・ロイター社・・・中会議室4

URAとして研究者の論文検索、被引用数、h-index、Impact Factorの扱いや解釈に困ったことはありませんか。現在多くの大学図書館でご契約頂いているWeb of Scienceを用いた大学の研究力の分析、研究者の論文検索のコツを紹介します。(8月末実施予定の第一回URA・研究支援実務担当者向け有料トレーニングの講義の一部をご紹介します。)後半では、論文データを用いた国内外の大学の強みの分析例、分野をリードする研究者の特徴、エビデンスデータ提出の際のコツ・注意点等をご紹介します。

S: トムソン・ロイター 学術情報ソリューション アカウントマネージャー 古林奈保子

12:00-13:30 ポスターセッション・・・中会議室1、2 (コアタイムは12:45~13:30)

13:30-15:00 全体討議

コーディネーター: 理化学研究所研究戦略会議研究政策企画員 高橋真木子

15:00-15:15 大会総括/閉会挨拶

金沢大学理事(研究・国際担当) 山崎光悦

以上

	中会議室 1	中会議室 2	中会議室 3	中会議室 4	廊下
9:30 開場					
9:45 開会挨拶		開会 挨拶			
9:50 来賓挨拶		来賓 挨拶			
9:55 趣旨説明		趣旨 説明			
-10:10	「定着化に動き出した日本版 URA の更なる発展に向けて」				
	会場 移動				
10:15 ワークショップ 11:45	WS1 「研究者ニーズと日本版 URA のあるべき姿」		WS2 「日本版 URA 人材の育成」	WS3 「日本版 URA の外部ネットワーク形成」	
ランチ					受付
12:00 (イベント) 12:45			エルゼビア ランチョン セミナー	トムソン・ロイター ランチョン セミナー	
12:45 (ポスター コアタイム) 13:30	ポスター セッション				
13:30 全体討議 15:00	全体 討議				
15:00 閉会挨拶 -15:15	大会総括/ 閉会挨拶				